

F J / F 4 関係者 各位

日本F 4 協会
 会長 鈴木 修二
 F J 協会
 会長 神谷誠二郎

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素はF J 及びF 4 レースに対し、ご理解、ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、本年度のJ S S スカラシップ（F J からF 4 へのスカラシップ奨学制度）ドライバー松本武士（まつもと たけし）選手のF 4 レース参戦のご報告をここにお送りします。

今後とも皆様のあたたかいご声援をお願い申し上げます。 敬具

J S S スカラシップドライバー	松本武士選手のF 4 レース参戦報告
J A F 地方選手権F 4 西日本シリーズ第6戦 大会名 OKAYAMAチャレンジカップレース 期 日 2008年 10月 12日 開催場所 岡山国際サーキット 参加台数 13台	

最終戦は松本選手がポール to ウインで有終の美を飾る

F 4 西日本シリーズ最終戦は岡山国際サーキットで開催され、1 台が未出走の為、1 3 台で行われた。シーズン中盤から好調の波に乗る花岡選手とは対照的に、セッティングに苦しみ順位を落としていた松本選手であるが、最終戦では何とか練習走行から調整を図り、花岡選手とのタイトル争いに持ち込んだ。そして、6 位までが0.4 秒の中に入るという緊迫の予選では、鬼気迫るドライビングを見せてポールを獲得した。決勝レースでもノーミスでトップを死守して3 度目の優勝を飾った。

シリーズランキングでは花岡選手が松本、小林選手を2 ポイントリードしてチャンピオンを獲得した。シーズン途中の不調により、惜しくもタイトルを逃した松本選手ではあるが、ポール獲得数、優勝回数共に西日本シリーズ最多ドライバーとなり、勝利への執着とドライバースキルの高さを発揮したシーズンだった。

○ 練習走行

練習走行が始まると、今回も好調なのは花岡選手で、一人 1 分 32 秒台を出し、33 秒台に小林、松本、野尻、伊藤、増田、白坂選手などが連なる。花岡選手と小林選手はピットインを繰り返す走行でセットアップに余念がない。一方、松本選手は前回のレース以後、練習をしていなかったことや、ドライビングスキルをより高めるべく、ドライビングを中心に練習を重ねる。

土曜日には各車ニュータイヤをトライするが、小林選手が 32 秒台に突入すると、他のドライバーも同様に 32 秒台にタイムを上げてくる。そうした中で、やはり最終的には花岡選手が 31 秒 5 という驚異的とも言えるタイムを叩き出す。他の有力選手は軒並み 32 秒台に集中しており、ただ一人飛び抜けた感がある。松本選手も花岡選手に届くには 1 秒のタイムアップが必要となった。

○ 公式予選

気温は前日より5度低く、この秋一番の冷え込みである。

予選が開始されると、やはり花岡選手が速く、早々に1'31.5のトップタイムを叩き出す。しかし他も負けじとタイムを上げて6番手までが31秒台という展開となってきた。松本選手は4位あたり。予選時間も半分を過ぎると花岡選手が100分台でなおタイムアップしてアタックを終了した。そして、他の選手もタイムアップを諦めピットに向かい始める。しかし、松本選手はまだトライを続け、遂にラスト2周でトップに浮上した。鬼気迫るタイムアタックはさらに続き、最終ラップにはタイムを縮め1'31.439と昨日までの練習走行からは1秒強もタイムを縮めてポールポジションを獲得した。

予選結果

Pos	No.	Name	Model	Car Name/Team	Time
1	22	松本 武士	WEST056	JSS・nutec☆provile+giddy up056	1'31.439
2	26	花岡 翔太	WEST006	プラスK☆アキランド☆イーグルスポーツ	1'31.506
3	88	野尻 智紀	WEST006	オートボックス006サクシード	1'31.584
4	31	増田 定臣	WEST056	Broval.JP☆056	1'31.641
5	73	竹本 俊春	WEST056	ガレージウエツキタケチャン	1'31.708
6	70	白坂 卓也	WEST006	プラネックス・ハナシマレーシング 006	1'31.823

○ 決勝レース

予選とは違って変わって暑い日差しが強くなったが、まだ気温も路面温度も昨日よりは低い。

スタートでは松本選手はジャストミートでポールからそのままトップで1コーナーに飛び込む。一方、花岡選手は出遅れて増田選手と並ぶように1コーナーに侵入するが、接触寸前の中、増田選手がスピン。そして、その後方は混乱状態となり、クラッシュ事故も発生してしまう。小林選手と、初参加の神子島選手は、その1コーナーで車を止めることになってしまう。

これで先頭を走る松本選手、2位花岡選手が後続を離れた形となりタッグマッチの様相を呈した。

混乱をかいくぐった3位以下の順位は野尻、上住、廣田、富本、白坂選手の順だ。

トップ2車の1秒強あった間隔は徐々に縮まり5周目には0.5秒差にまでなる。松本選手はミラーで相手との距離を測りながら走り方を探り、立ち上がり重視のドライビングに切り替える。すると、その後は縮まった差が再び少しずつ離れる展開となる。

確実に力をつけてきた野尻選手が3位を走るが、その後方グループでは、7位を走る白坂選手の勢いが良く、4周目に6位、8周目に5位、そして、ラスト2周で4位にまで上がる検討を見せた。

松本選手はファステストラップも記録しつつ、花岡選手との差を1秒にまで開いたところで15周を終え、先頭でチェッカーフラッグ受け、見事なポール to フィニッシュを決めた。

そして、シリーズランキングでは花岡選手が松本選手より2ポイント上回り、チャンピオンを獲得した。

決勝結果

Pos	No.	Name	Model	Car Name/Team	Lap	Time
1	22	松本 武士	WEST056	JSS・nutec☆プロバイル	15	23'15.604
2	26	花岡 翔太	WEST006	プラスK☆アキランド☆イーグルスポーツ	15	23'16.662
3	88	野尻 智紀	WEST006	オートボックス006サクシード	15	23'26.076
4	70	白坂 卓也	WEST006	TeamNaoki・波奈グループ006	15	23'33.423
5	36	上住 道人	WEST006	和歌山R・ファクトリー/テイクファースト	15	23'35.086
6	31	増田 定臣	WEST956	Broval. JP☆056	15	23'41.402

以上